

科目名	サウンドスケープデザイン
科目名英字	Soundscape Design
学部	工学部
キャンパス	金沢八景キャンパス
担当者	辻本 香子
授業形態	講義

授業の到達目標 及びテーマ	サウンドスケープという、音や聴覚を考える方法について、その考え方が生み出された背景や普及してきた歴史を含めて学ぶ。その際に、音について深く考えることを通して、私たちの暮らす社会で身の周りにある感性や感覚の問題を、自分なりに人に伝える手段と技法を身につける。				
授業の概要	この授業では、サウンドスケープ概念を成立させてきた歴史・理論・実践を相互に関連づけながらバランスよく学ぶ。歴史的には、サウンドスケープという考え方が生まれる前にさかのぼり、19-20世紀の西洋音楽とコンサートホールの変遷、20世紀の北米における芸術音楽と公害問題、そして20世紀後半の日本における受容などについて背景を理解する。実践には、サウンドウォークやサウンドマップ作成、録音演習など、教室の外でおこなう活動を含む。そして事例を含めた理論として、現在のサウンドスケープ論にかかわっている多くの領域の中から、音楽研究、音響工学、環境社会学、民族音楽学・文化人類学などの切り口を参照しながら、それぞれの領域における音のありかたについて考えを深める。その過程で、音をはじめとした、感覚・感性的なものについて、言葉をはじめとした様々な表現手段で他人に伝える力を養っていく。				
授業計画	第1回	1. [音の風景とは] ガイダンスと概要の説明。講義の目的、授業の進め方や成績評価方法について解説する。「サウンドスケープ」という概念について、どういった場で使われるのか、具体的な体験を通して理解する。			
	第2回	2. [イヤークリーニング] 私たちが日常・非日常で耳にしている音について、改めて考え直し、イヤークリーニングの体験をする。			
	第3回	3. [音・音楽・ことば] 耳からつたわる情報、コミュニケーションの手段としての音について、さまざまな文化の事例を参照しながら学ぶ。			
	第4回	4. [音楽と音楽を聴く場所について] サウンドスケープという概念が誕生した背景とその過程について、西洋音楽の変遷をたどりながら学び、その関連性を理解する。また、イヤークリーニングについて理解する。			
	第5回	5. [環境の音をめぐって・自然と都市] 20世紀中盤の北米においてサウンドスケープ概念が発展した過程と、その時期の社会変化などについて学び、関連性を理解する。また、サウンド・マップの作成を通じて、音を視覚化する練習をおこなう。			
	第6回	6. [デザインとサウンドスケープの活動] 20世紀後半の日本におけるサウンドスケープ受容を通して、サウンドスケープデザインの事例に触れる。特に1990年代の活動について、その時代背景を含めて理解する。また、サウンド・マップ作成の続きをおこなう。			
	第7回	7. [耳の証人] 第5回・第6回を受けて、音風景選出事業について、その歴史的意義を含めて学ぶ。特に、音について語る「耳の証人」の考え方を身に付ける。サウンド・マップの仕上げをする。			
	第8回	8. [歴史とサウンドスケープ] 第7回に引き続き、文献に記されたサウンドスケープの読み取り方を学ぶ。また、音を記述する方法について、実践を通して学ぶ。			
	第9回	9. [音楽とサウンドスケープ1] 自然の音と文化の音、芸術音楽と民俗音楽の違いについて学び、音環境と音楽のかかわりがさまざまな文化のなかでどのように位置づけられているのかを学ぶ。			
	第10回	10. [人間の社会とサウンドスケープ] 第9回に引き続いて、音をめぐるフィールドワークの方法と民族誌について学び、音環境をめぐる文化について考える。			
	第11回	11. [産業とサウンドスケープ1] 騒音問題とサウンドスケープの関係について、工学・社会学の観点などを参考にしながら実際の事例をもとに考え、応用の方法について学ぶ。			
	第12回	12. [産業とサウンドスケープ2] 第9回から第11回の流れを踏まえて、現代の私たちの暮らしに密着しているBGMや音楽とその産業について学ぶ。			
	第13回	13. [音楽とサウンドスケープ2] 現代音楽とサウンドアートについて学び、美術・映像などの分野におけるサウンドスケープの実践について理解するとともに、現代のアートについて考える。			
	第14回	14. [音の記述と伝達] これまでの講義を振り返り、要点を復習しながら、試験に向けて記述の練習をする。			
	第15回	15. [試験について] 試験に向けた諸注意や質疑応答などをおこなう。			
参考書	書籍名	著者	出版年	ISBN	
	1.	世界の調律——サウンドスケープとはな	R. マリー・シェーファー	1986 (2006)	4582765750
	2.	サウンドスケープ—その思想と実践	鳥越けい子	1997	430605229X
成績評価方法・基準	試験結果 80% 課題 20% (目安)				
履修上の注意 (学生への指示)	講義のほか、実際に音に関わる活動もおこなうので、出席してノートをとる・課題に取り組むことが重要である。参考書を含め、詳細は第一回目の授業で説明する。				